セッケイカワゲラ

「冬、雪の上で活動する虫がいますよ。」と言うと、普通は「本当ですか？冷たい雪の上に虫なんていないでしょう。」と答が返ってきます。

「そうそう、真っ黒の小さな虫でしょう。見たことがありますよ。太陽の光を吸収して体温を上げるために真っ黒なんでしょうね。」と答えてくれるのは、冬でも注意深く野外観察を行っている人に限られます。

知る人ぞ知る、雪の上で活動する小さな虫を紹介しましょう。

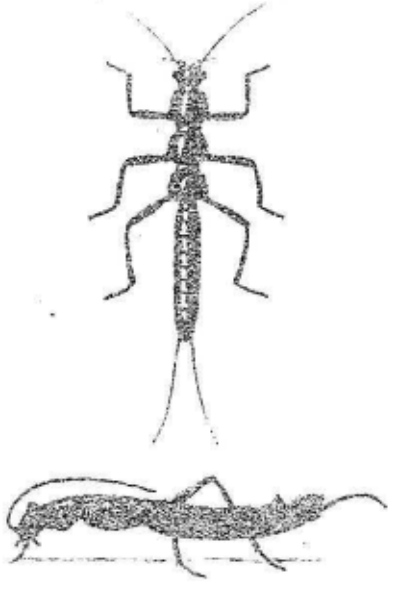
山地の谷間に行ってみよう

降雪のピークを過ぎ、そろそろ雪解けにかかる２月～３月のころ、丘陵地や山地の谷間にかかる橋をめざして出かけてみましょう。天候は晴、太陽がしっかりと雪の上を照らしている時がいいですね。スキーの行き帰りなど、ちょっと車を止めてみてもいいでしょう。

谷川から橋の周辺にかけての雪の斜面に注目しましょう。よく目をこらして見ると、１ｃｍほどの真っ黒な細長い虫が、雪の上をチョコチョコと歩き回っています。

一度見つけると、あっちにもこっちにもいることが判ってきます。これがセッケイカワゲラです。

最初に、立山のような高山の雪渓上で発見されたのでセッケイカワゲラと名付けられましたが、高山だけでなく丘陵地や低山地でも見ることができます。



図．セッケイカワゲラ

斜面の上に向かって歩く

セッケイカワゲラの様子を見ていると、面白いことに気づきます。どの虫も、皆斜面の上、つまり谷の上流山側に向かって歩いているのです。平らな所では谷川の上流に向かって歩いているようです。

雪の斜面は私たちには、一様に傾いているように見えますが、よく見ると結構デコボコがあって、小さな虫にとっては一つ一つのデコボコが自分の体の何倍もの高さがあり、どうして全体の傾斜が判るのか不思議な気がします。また、平な所でどうして上流方向が判るのでしょうか。これも不思議です。これには、太陽のある位置から方角を知り、歩く方角を一定方向に定めているのだ、と考える人もいますが、まだはっきりとは解っていないようです。ではなぜ上の方へと歩いていくのでしょうか。これは、より上流の方で産卵するためではないかと考えられています。

幼虫は水の中

セッケイカワゲラの雌は、雪上を歩き回り、落ち葉や小さな虫の死骸などのえさを食べ、交尾をします。そして春再び谷川に戻り産卵します。

その卵からかえった幼虫が夏の間どのようにしているのかは、まだよく解ってはいません。谷川の中にいることは確かなのですが、なかなか見つからないのです。川底の砂礫の下に潜り込んでしまっているのではないかと考えられています。秋になると現れ、水中の腐った落ち葉を食べて成長します。幼虫の時下流へと流されてしまうので、卵はより上流で産みつけられなければならないのでしょう。

2～3月になると成虫になり、再び雪上で見られるようになります。

冬、雪上で活動するちょっと変わった昆虫、セッケイカワゲラ。あなたも観察してみませんか。　　（根来　尚）

富山市科学文化センター
〒939　富山市西中野町1－8－31
TEL（0764）91－2123（代表）

平成7年　3月1日